

2022年度（令和4年度）決算

1. はじめに

2022年度は、新型コロナウイルス感染症は収束に向かいつつも影響が残り、病床確保などの制限が継続されました。そのため、外来患者数は大分回復してきましたが、入院患者数についてはいまだ回復途上です。感染対策補助金については2020年度、2021年度に続きコロナへの対応や環境整備が評価され交付を受けることができました。結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）が予算を上回る決算となりました。

2. 資金収支計算書

施設関係支出は16.1億円、設備関係支出は34.1億円でした。施設関係の主な支出は、建物が10.4億円、柏病院の手術室など建設仮勘定5.6億円の支払い、設備関係の主な支出は手術支援ロボットなど医療器械24億円、システム関連5.1億円の支払いでした。この結果、次年度繰越金は524億円と前年度比15億円増加しました。これ以外に本学は有価証券を317億円保有している為、前期末の現金預金有価証券残高は841億円となり、2026年開院予定の第三病院建替えについて現状では十分な原資があると言えます。

3. 事業活動収支計算書

2021年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、医療収入は1025.5億円（予算比▲20.5億円・同比▲2.0%）、医療収支（医療粗利益）は597.1億円（予算比▲30.2億円・同比▲4.8%）と予算に届きませんでした。一方で、医療経費は、428.5億円（予算比+9.8億円・同比+2.3%）と予算を超える水準でした。感染対策補助金については2021年度に続きコロナ対応の評価を受け、48億円交付されました。結果、基本金組入前当年度収支差額は31.7億円（予算比+22.3億円）と予算を上回ることができました。

4. 貸借対照表

当年度収支差額による純資産の増加31.7億円は、流動資産の現預金、有価証券、など流動資産増加分となっています。固定資産の内、建物、建設仮勘定を合計した35.5億円の減少は主に長期借入金の約定返済17.8億円と長期未払費用3.9億円の減少と見合っています。自己資金比率など主要な指標も2021年度より改善しており、全体として健全で安全性の高い内容になっています。

5. 決算開示方法について

平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットホームページでの決算報告は文部科学省への届出フォームで開示しており、本内容と異なります。